Project 22	地域協働専攻　地域政策グループ
	子どものことを考えた地域をつくる！ ～チャイルドファーストな地域づくり～
メンバー	[学　　生]　福田　誠也 / 天野　ほのか / 飯野　遼也 / 黒川　梨々花 / 佐藤　星歌 / 関根　朱音 /　高橋　佑奈 / 高橋　洋平 /　　/ 宮内　健塁
	[担当教員]　中村　直樹

【背景】

地域コーディネーターの方から「地域」と「子ども」を繋ぐことが困難であるという課題を抱えているという話をいただき、子どもたちと地域を繋ぐための架け橋が必要だと考えた。

【目的】

地域の人とのコミュニケーションや子どもたちの行動の手助けや補助を通して、学生たちが地域と子どもたちを繋ぐ架け橋となって、子どもの学び・挑戦を促進する。

【概要】

・地域コーディネーターの方と連携して、「地域」と「子ども」を結びつける。
・函館の街を学びの場として、地域で活動する。
・活動の際、交流を通して「子ども」たちの学びの挑戦を手助けする。

【プロセスと成果】

前期は私たちのプロジェクトの基盤となる、「子ども」についての調査を行った。しかし、コロナ禍などの理由から実践的な活動ができないでいた。そこで、後期は、実践的な活動を行うと決め、地域の団体と連携しながら地域での活動に力を入れた。

●「フリースクールすまいる　クリスマス会」

・学生が地域と子どもを繋ぐ架け橋となって、すまいるの子どもたちの居場所を広げ、地域への愛着を育むために、クリスマス会を企画した。3週間ほど前から複数回すまいるに訪問し、買い出し・たこ焼きパーティー・ドームケーキ作り・プレゼント交換についての打ち合わせを行った。またその中で、クリスマス会が終わった後も、子どもたち自身や家族と一緒に見返せるように、お知らせプリントとドームケーキのレシピを作成した。
・買い出しや調理などの共同作業における活発なコミュニケーションの中で、子どもたちが地域への愛着を再確認する機会を提供することができたと思う。普段なかなか交わらない大学生と子どもたちとの双方向の交流によって、思い出に残る楽しい会になった。

●「子どもたちとのスノードームづくり」

・学童から大学生とイベントをしたいという依頼をいただき、冬の時期に形に残る思い出作りをしたいという思いから、スノードーム作りの計画を始めた。12月の初めに試作品を作り、水漏れやラメが多い等の失敗を経験した。何か所もお店を回り、必要なものの買い出しや試作品づくりを繰り返した。子供たちが理解しやすいように工夫をした「スノードームのつくりかた」を作成した。1月13日学童でスノードーム作りを実施した。普段関わらない大学生と一緒にもの作りをしたという普段できない経験を通して、形の残る楽しい思い出作りをすることができた。ものを作るだけでなく、子供たちも積極的に会話をしてくれて、楽しんでいる様子がみられた。

●「子どもたちとの大学見学」

・後期の活動の一つとして、子どもたちを大学に招待して、①大学見学を兼ねた宝さがしゲーム　②子ども達と学生が一緒に学食を食べる　③体育館でレクリエーションを行った。
・私たちは、学生が主体となって子ども達が地域に愛着を持ち、居場所を広げる役割を果たすという目標を立てた。そのためにまずは大学という場所に興味を持ってもらい、子供たちと学生が協働できるような活動を行いたいと考えこの企画を立案させた。その成果として、学生が計画していたことを子どもたちと協働して活動することができ、子どもたち、学生ともに有意義で楽しい時間を過ごすことが出来た。

【スノードームづくりの様子】

【クリスマス会の様子】

【総括と反省・今後の課題】

前期は地域に出ての活動ができず、行動力と計画性の面で反省が残った。しかし、後期は様々な団体と連携して、子どもと地域を繋ぐ架け橋となるようなプロジェクトをすることができた。

●「フリースクールすまいる　クリスマス会」:後期の活動の中で実施が決まり、急遽、計画・実行することとなった。そのため、臨機応変な対応が難しく、準備期間や会場設営などについて余裕を持った行動ができなかったという課題が残った。また、子どもたちの作業を学生がどこまで手伝うのかという線引きについても、細かな部分まで考慮しきれなかったという点から、今後はどのように子どもたちと関わっていくのか、安全性を確保しつつも子どもたちの自主性を育むことができる形を模索する必要があると感じた。本プロジェクトにおける、すまいるへの複数回の訪問や前日・当日の共同作業を通して、子どもたちと学生の双方向の交流ができ、思い出に残る楽しい会になったと共に、子どもたちの創造性を育むきっかけにもなったと考えた。さらに今回は、買い出しも活動の一環としたことで、子ども達の地域に対しての愛着を再確認すること、学生とのさらなるコミュニケーションをとることも可能になったと考えた。

●「スノードームづくり」:学童に通う児童とのスノードーム作りの活動では、小学生と大学生という日頃はあまり関わらない世代間での交流という目的に沿って、一緒に“もの作りをした”という普段できない経験を通し、形の残る楽しい思い出作りをすることができた。子供たちも積極的に会話をしてくれて、楽しんでいる様子がみられた。反省としては学童側との直接の打ち合わせが当日の朝になってしまったことと、事前に学童を訪れ児童との交流を図れなかったことである。事前に交流をすることができていれば、当日さらに深い交流ができたのではないかと感じる。

●「子どもたちとの大学見学」:当初から計画していた事がスムーズにでき、子ども達、学生ともに有意義で楽しい時間を過ごすことが出来た。しかし、逆に時間が余ってしまい30分ほど待機時間を作ってしまった。今後の課題としては、この地域プロジェクトの活動が終了した後でも、継続的な関係を続けるということが挙げられた。

【地域からの評価】

●ひだまりクラブ足立先生より「普段かかわることのできない地域の大学生と交流ができ、楽しかった。今後も定期的な交流が開きたい」と感想をいただいた。

●フリースクールすまいる越智さん:短い期間での、計画準備は大変だったと思いますが怪我等なく終われて安心しました。計画準備はもう少し早めに始められるとよかったのかなと思います。当日までの過程で買い物も一緒に行けた事は子ども達にも「クリスマス会で何を作るのか」のイメージが付きやすく実施できてよかったと思います。ボランティアに来られる頻度にバラつきはありましたが当日は積極的に子ども達と関わってくれようとする姿が見られて嬉しかったです。子ども達の特性や信頼関係を構築するまでには至らなかった部分はあるとは思いますが今後も関わっていってくれると子どもたちも喜ぶと思います。

【年間スケジュール】

■前期

4月～5月　若者問題についての話し合い
6月　子ども食堂の調査
（函館の子ども食堂に電話やメールで調査）
7月　活動内容の最終確認

■後期

10月～11月　活動準備
12月初旬　最終調整
12月22日　「フリースクールすまいるクリスマス会」
1月13日　「学童保育ひだまりクラブ
スノードームづくり」
1月19日　「子どもたちと大学見学」